

2025年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

第1問 (配点: 35点)

次の(設例)を読んで、警察官Kの下線部の行為について、それが捜査又は行政警察活動のどちらであるかなどに留意して、関係条文を挙げつつその適法性について論じなさい。

(設例)

警察官K(制服着用)は、某日午後1時頃、管内のホテルの支配人Aから宿泊客甲に関し110番通報を受け同ホテルに臨場した。Kは、Aから、甲が昨日から単身で客室に宿泊しているが翌日のチェックアウトの時刻になっても一向にその手続をしなかったこと、身体に入れ墨をしていたこと、ホテル側からの料金精算要求に対し「この部屋は二つに分かれているんじゃないか。」など不可解な言動をしたことなどから、無銭宿泊の疑いや薬物使用の懸念が生じており、甲にはホテルから退去して欲しいと思っていることなどの説明を受けた。

Kは、直ちに甲が投宿する301号室に向かい、同室ドアをたたいて「お客さん、お金払ってよ。」と声をかけたところ、室内に居た甲が、同ドアを内向きに約20～30センチメートル開けたが、すぐに同ドアを閉めた。Kは、その際、甲が全裸であり、入れ墨をしているのを現認したことに加え、制服姿の自分と目が合うや慌てて同ドアを閉めたことから、質問を実施継続するため、甲が内側から押さえている同ドアを約30センチメートル内側に押し開け、右足を一步室内に踏み入れ、同ドアが閉められるのを防止した。その際、同ドア内側付近のみKの視界に入り、同ドアの陰に隠れて室内の奥までは見通せなかった。

ところが、その途端に甲が両手を振り上げて殴りかかるようにしてきたため、Kは甲を公務執行妨害罪で現行犯逮捕した。

第2問 (配点: 15点)

同種の前科事実があることを被告人の犯罪事実の立証に用いることの問題点について論じなさい。